

# Integrated Report

## 2023 ワイン工房あいづ 統合報告書

# CONTENTS ..... P1

## ワイン工房あいづの価値基準

1. トップメッセージ	.....	P2
2. 企業理念	.....	P3
3. 18年の歴史	.....	P4
4. 財務ハイライト/財務指標	.....	P5
5. 非財務ハイライト/非財務指標	.....	P6

## ワイン工房あいづの成長戦略

6. 価値創造戦略	.....	P7
7. ワイン工房あいづのSDGs	.....	P8
8. 中期経営計画 総括	.....	P9
9. 事業別戦略 成長戦略	.....	P10

## 成長を支える基盤

10. 人財戦略 経営基盤	.....	P11
11. 会社情報	.....	P12

## 1. トップメッセージ

---

# ワインという嗜好品の枠を超えて 持続可能な社会の実現に貢献する

数多くの天災が日本各地を襲うその裏側で、当社は常に、ワインを通じてお客様の食卓に華を添えられるよう努めてまいりました。この実り多き福島を長年見守り続けた磐梯山、その麓にある「猪苗代町」から福島県会津産果実の魅力や地域の魅力を皆様に届けたいという想いでワインを醸造しています。

コロナ禍や地政学リスクの顕在化で持続可能なサプライチェーンの重要性が再認識されつつある今こそ、当社が果たしている社会的機能や役割を、お客様をはじめとし、生産者様や各種加盟団体様、その他当社に携わる全てのステークホルダーの皆様にご理解いただきたいと考えています。

2023年2月に、昭和化工株式会社のグループ傘下になったことを機に研究施設としての役割を担い、新たな挑戦を始めています。ワイン工房あいづは、「ワインという嗜好品の枠を超えて持続可能な社会の実現に貢献する」という「存在意義」をステークホルダーの皆様と共に体現していきます。

地元・地域に愛される企業を目指して取り組み、情熱と英知を結集し、企業としての社会的責任を全うしていく所存です。

## 2. 企業理念

---

### 社是 ～夢を醸し、味わいを創る～

当社は地球に根差した活動を広げ、人と環境にやさしい企業を目指します。

社是にあるように常に夢を持ち、ワイン醸造に情熱を傾けその実現を目指しています。

有言実行をしながら、お客様及び社会に貢献していきます。

当社はおかげさまで創業18年を迎えました。

当社の位置する福島県猪苗代町は、広大な田園を有しており蕎麦の全国有数の産地です。民謡でも有名な会津磐梯山の麓に店を構え、近くには日本で4番目の湖である猪苗代湖もあり、四季折々の自然を楽しめます。

弊社でのワイン造りは、日本でも珍しい発酵・熟成を23ℓのガラス樽を用いて醸造しています。大きなワイナリーとは違い小さなガラス樽での醸造だからこそ一つ一つの作業を丁寧に、ぶどう本来のポテンシャルを最大限に生かせる方法であると考えています。

そのため、果実以外の成分が入らないすっきりとした味わいに仕上がります。

#### ▪ 地域振興と環境改善

ワイン中のオリ（廃棄物）を使用し、生産者様（ぶどう農家様）と緊密な協力関係を築き、本来廃棄すると発生するCO<sub>2</sub>削減として環境改善に貢献しています。ワインイベントなどにも積極的に参加し地域振興に取り組んでいます。

今後も18年に渡り蓄積してきたワイン醸造技術を活かしながら、社会のニーズに合った商品を提案していきます。

且つ、昭和グループの傘下になったことを機に新たな挑戦をしながら、ワインだけではなく研究分野での発展にも努めてまいります。



# 3.18年の歴史

## ◆会社沿革

- 2005 会社設立  
カナダ・バンクーバー研修
- 2006 醸造免許取得
- 2007 店舗開設
- 2010 醸造所の増設
- 2022 昭和化工(株)の完全子会社へ
- 2023 現在に至る



## ◆HISTORY

2005年に設立し、県内では2番目に出来たワイナリー。カナダに研修へ行った際に小さなワイナリーがひしめく中ガラスの樽で醸造しているワイナリーが多くあり、日本でやればユニークであると考え取り入れた醸造手法。オープンしてからは各種メディアにも紹介され「日本一小さなワイナリー」として人気を醸しました。今まではワインの醸造・販売のみでしたが、今後は新たな挑戦を視野に入れ、自社畑の新規開拓、研究施設の新設、観光ワイナリーとしての役割を担える、地域に根差したワイナリーを目指していきます。

## ◆商品紹介

- ・会津産シャルドネ
- ・会津産マスカット・ベリー-A
- ・会津産スチューベン
- ・会津産ピノ・ノワール



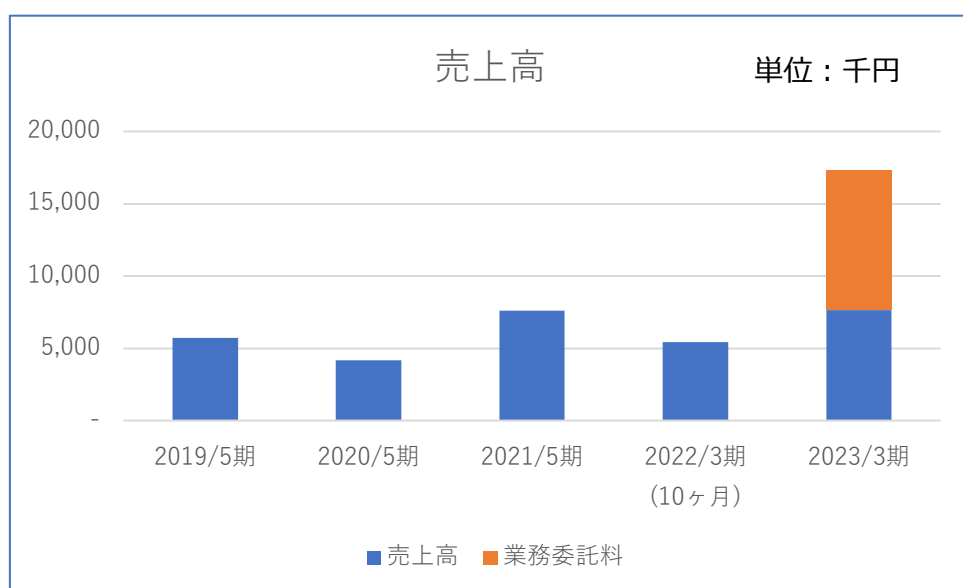
オープン当初は海外からの果汁を仕入れ製造していたが、現在は地元会津産の原料にこだわっている。福島県のシンボルといっても過言ではない「会津磐梯山」をモチーフにしたラベル。地域をこよなく愛す弊社ならではのラベルデザインです。

## 4.財務ハイライト/財務指標

### ■ 成長性

#### 売上高

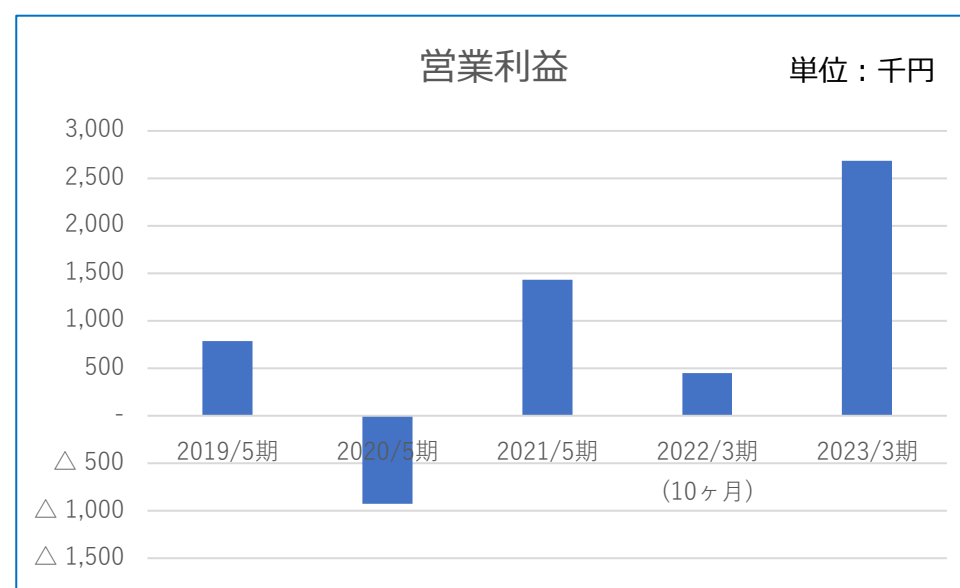
親会社である昭和化工(株)からの研究受託を受け、売上収益の大幅な増加。



### ■ 収益性

#### 営業利益

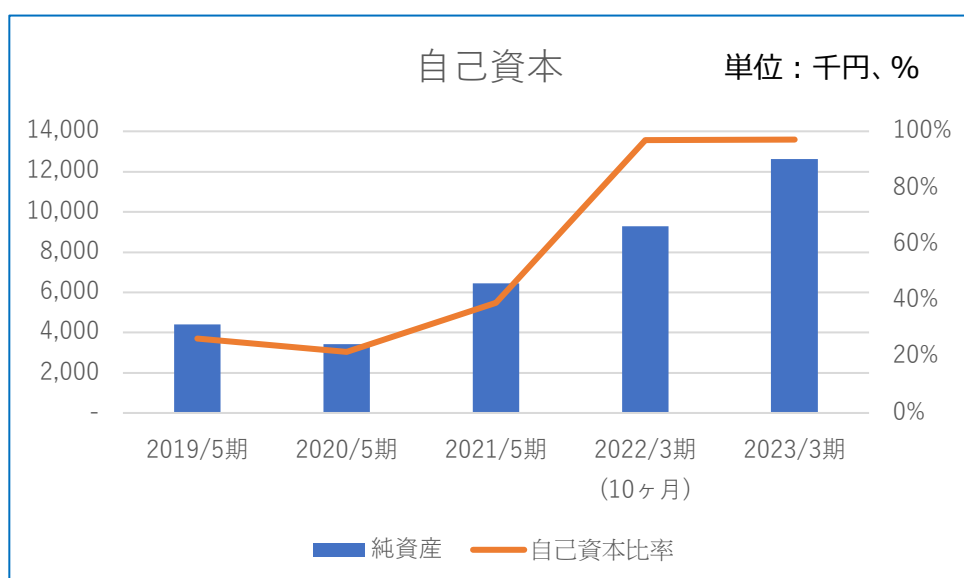
コロナ禍において厳しい時期もあったが、直近では営業利益も回復傾向。



### ■ 安定性

#### 自己資本比率

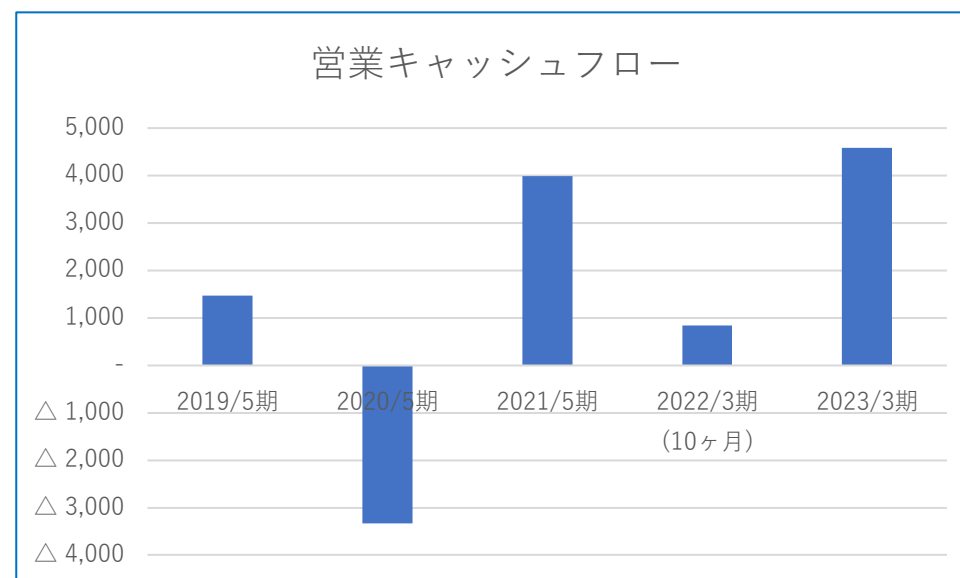
増資により自己資本を充実させ、安定した財政基盤を構築。



### ■ 安定性

#### 営業キャッシュフロー

営業キャッシュフローを安定して計上。





## 5.非財務ハイライト/非財務指標

### ・ワーク・ライフ・バランス

平均残業数※1	0 : 0 0
有給休暇取得率※1	6 1 %
従業員満足度※2	1 0 0 %

※1 裁量労働制適用者、管理監督者を含む全社員の平均

※2 従業員満足度に「そう思う」「ややそう思う」と回答した人の割合

その他にも下記手当が充実

・通勤手当	・食事手当	・住宅手当	・資格手当
・家族手当	・調整手当	・皆勤手当	・定年制度有（70歳）

### ・工房見学

当ワイナリーでは工房見学を実施しております。

醸造室、熟成室と日本国内でも珍しいガラス樽製造の見学は見る人々の目をくぎ付けにします。

### ・ワイナリー同士の交流

ふくしまワイン広域連携協議会へ参加し、今後の福島県内ワイン醸造のレベルアップのため情報共有をしています。

### ・SDGsへの取り組み

緑地化計画やCO<sub>2</sub>削減計画、廃棄物の再利用など、今後の地球環境のために取り組んでいます。

## 6. 価値創造戦略 ワイン工房あいづの将来像

### 価値創造プロセス

私たちは事業活動を通じて地域社会の課題解決に取り組み、地球環境や社会の持続的発展に貢献しています。

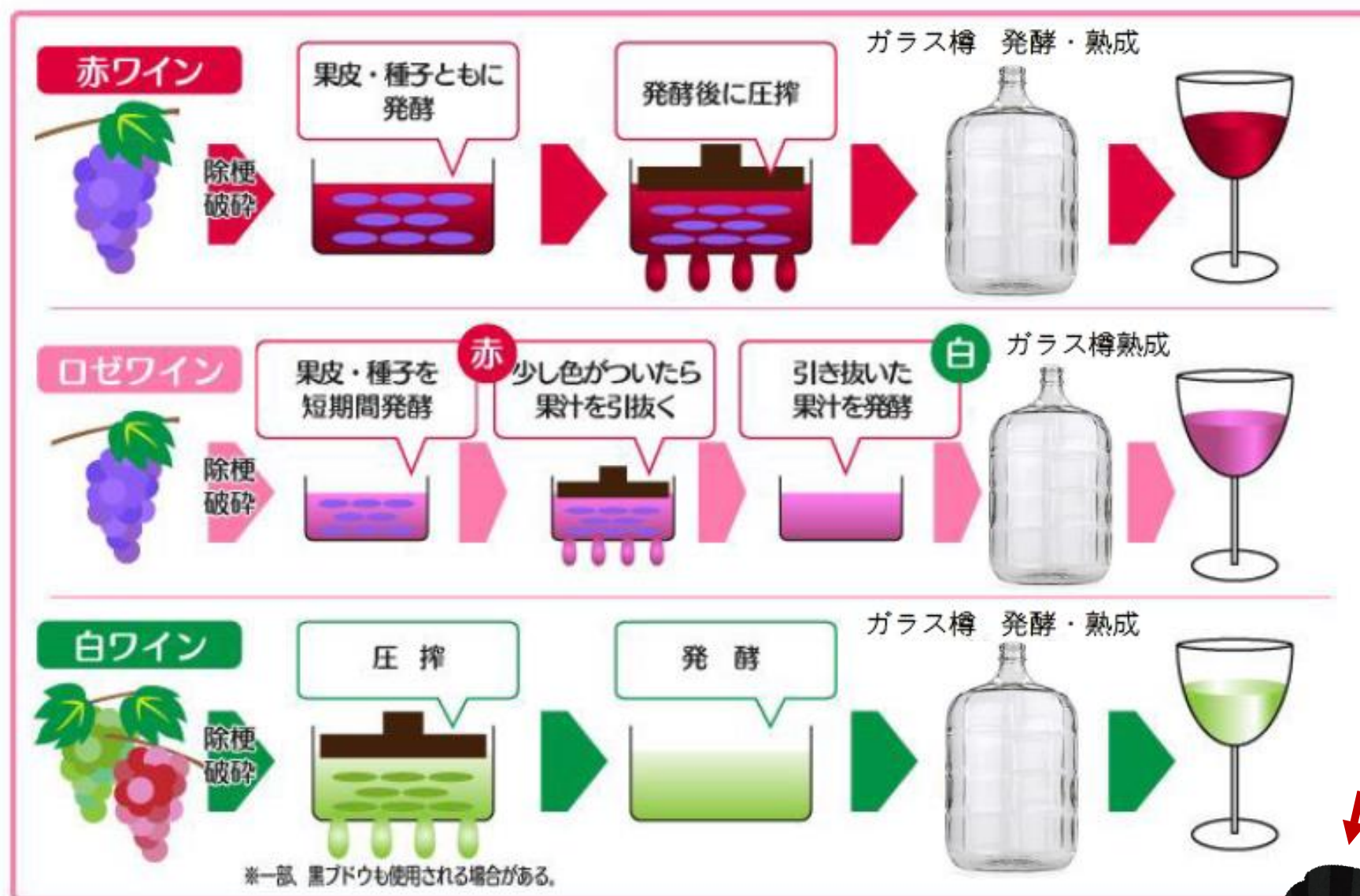
#### ▪ 六次産業事業

地元会津地域の果物を原料とし、弊社で製造、販売を行い地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取り組みをしています。

#### ▪ 環境事業

ワイン製造で排出されたワイン澱や醪をぶどう農家さん監修のもと堆肥として再利用しています。通常通りの廃棄で出てしまうCO<sub>2</sub>の削減に寄与。

### ワイン工房あいづの製造工程・環境と共存共栄



ぶどうの絞りカス



畑の肥料として活用

リサイクル

付加価値の創造





## 7. ワイン工房あいづのSDGs

### ■ 安心安全な製品製造

国産原料のみを使用した国産ワインを醸造し、常に安全安心を心掛けた製品を提供します。



### ■ 90%以上をLED電球へ

LED電球は少ない電力で蛍光灯等の明るさを出せるため消費電力を抑えられます。さらに長寿命な為、電球廃棄の際に放出されるCO<sub>2</sub>の削減につながります。



### ■ 製造廃棄物処理

醸造の際に発生した廃棄物は取引先ぶどう園様監修のもとぶどう園の肥料として再利用しています。ぶどうの木の栄養分として役立っています。



### ■ 廃棄物の今後の再利用方法

ワイン醸造からでるワイン澱や醪はポリフェノールやアントシアニンを多く含み、親会社である昭和化工株式会社と連携を組み抽出技術の確立やポリフェノールやアントシアニンを含む製品の開発、その他再利用方法を模索し今後の更なる発展に繋がられるよう尽力しています。



### ■ 緑地化計画

我が社では借地のぶどう畑を利用して緑地化計画を行っており、自然環境保全、公害緩和、災害の防止、景観の向上などカーボンニュートラルの第一歩としてCO<sub>2</sub>の排出削減を目指しています。



## 8. 中期計画 統括

研究施設として、本年度は昭和化工グループ各社と連携し、ポリフェノールやアントシアニンの抽出技術の確立を模索してきました。弊社の役割としてワイン製造・販売は当然のこととし、ワイン・搾りかす・オリに含まれる有効成分を分析しながら、様々な健康価値を模索し新たな付加価値を創造できるよう取り組んでいきます。今後は施設としての自立、新たな分野での研究模索・開始を3年後を目標に挑戦していきます。

ワイン工房あいづ3か年計画

	2023年4月	6月～12月	2024年1月～3月	4月～5月	6月～12月	1月～3月	2025年4月	5月～12月	1月～3月
求人募集	中途採用募集	中途採用勤務開始	農業従事研究開発採用募集	採用決定	新入社員勤務開始				
醸造		旧施設にてワイン発酵・熟成開始	旧施設にてワイン瓶詰・販売開始		旧施設にてワイン発酵・熟成開始	旧施設にてワイン瓶詰・販売開始		新たな施設ワイン製造開始	
新規土壌		新規土壌模索	新規土壌決定	新規建築開始(約1年)			新規研究施設開館		
自社農園			ぶどう苗木選定	土壌改良	ぶどう苗植樹(収穫まで約3年～5年)				
研究分野		専門検査センターへ検査委託			専門検査センターから研究分野技術指導		新規研究施設運営開始	新規研究分野模索	

新体制でのスタート

### ■ 事業環境・計画

#### リスク

- 地球温暖化による原料・資源状態の変化が、収穫量の減少 = 生産量減少につながる可能性
- 台風や自然災害の影響により生産量の低下
- 社会情勢からなる物価高騰による生産コストの上昇

#### 機会

- 世界的な健康志向の高まりによるワイン需要の増大
- 地産地消における地場商品への関心の高まり

#### 戦略

- 親会社である昭和化工(株)の力を借りながら、積極的な設備投資による資源アクセス力の強化
- 収益の安定した事業の構築
- 多様なニーズに対応した「食材化」推進・強化
- 安心・安全をモットーにISOの取得
- 地元だけでなく県外への販路拡大

## 9.事業別戦略 成長戦略

### ・ワイン事業への取り組み

日本のワイナリーは増加傾向にあり、令和3年時点の調査によると400施設以上があります。大半のワイナリーは国税庁が推奨する6klという醸造目標をクリアしていますが、弊社ではまだ半量しか製造できていない状況です。今後の目標として今年は4.4kl、来年は5.5kl、3年後には6kl醸造を目標に挑戦していきます。

### ・新たな醸造への取り組み

今後、国産ワインの需要は高くなり国内だけでなく世界で活躍するワイナリーは増えていくと予想されます。私たちは地産地消にこだわり、会津産のぶどう原料で福島県内外から支持されるワイン醸造に挑戦していきます。

### ・更なる技術の高度化へ

ワイン工房あいづとして研究分野への取り組みをより一層強化し、今後の研究施設としての役割を果たすべく計画を立て実行していきます。さらに国内ワインは需要が高まる中、海外製ワインと同等の品質やネームバリューが求められるようになってきました。18年間培ってきたガラス樽での醸造で満足せず、新しい技術や製法、新しい原料品種への挑戦をしていきます。

### ・ポリフェノールやアントシアニンの更なる発展へ

ぶどうの澱や醪、茎にはポリフェノールやアントシアニンが多く含まれています。その澱や醪等を捨てることなくSDGsにのっとり再利用できないか模索しています。親会社である昭和化工株式会社のを借りながら今後の新商品開発へ挑戦していきます。

### ・5年後、10年後のために

今後のワイン工房あいづの発展のために、研究施設としての確立や技術だけでなく、世界に向けての販路拡大も視野に入れ、ブランド名の確立や店舗の拡大、自社畑でのぶどう栽培を目標に挑戦していきます。



# 10.人財戦略 経営基盤

## ■ 人財戦略

次世代育成のための取り組み、昭和グループ研修をはじめ、職場での実務体験を基本とした新入社員教育、部内教育、Webでの外部セミナーの受講による階層別教育を活用しながら積極的に教育の機会を提供します。専門性の高い人材を積極的に採用し新製品開発、研究部門確立などに挑戦します。

## ■ 経営基盤 (役員紹介)

・小椋 浩之介 令和4年2月 代表取締役(現任)

経営者としての豊富な経験と高い識見を活かし、当社の継続的発展が期待できると考え選任。

・山中 康主 令和4年2月 代表取締役 (現任)

グループ会社の管理部門業務に精通しており、当社の継続的発展が期待できると考え選任。

・根津 欽一郎 令和4年2月 取締役 (現任)

大手企業で役員を務めていた経験と知識を活かし、当社の継続的発展が期待できると考え選任。

・坂本 恵理 令和4年2月 監査役 (現任)

常に会社の軌道修正を図りながら企業を前進させる役割ができると考え選任。

## ■ グループ組織図・資本比率



# 11.会社情報

創立	2005年9月13日
資本金	金759万5000円
従業員数	2名
ネットワーク	<p>【グループ会社】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■昭和化工株式会社 本社工場 大阪府吹田市 東京支店 東京都千代田区</li> <li>■九州化工株式会社 鹿児島県鹿屋市</li> <li>■サツマ化工株式会社 鹿児島県南さつま市</li> <li>■村上給食株式会社 大阪府東大阪市</li> <li>■SKI Showa Kako India Pvt.Ltd</li> <li>■SKB Showa Kako do Brasil Ltda.</li> <li>■有限会社ワイン工房あいづ 福島県耶麻郡猪苗代町</li> </ul>

## Showa Kako Group







